

CentreCOM® 8624XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8624XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のユーザーマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl21 (2.2.2-21)

2 未サポート機能

以下の項目は付属のユーザーマニュアル、または最新のコマンドリファレンスに記載がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- BOOTP サーバー

3 本バージョンでサポートされた機能

ソフトウェアバージョン2.2.2 pl18から2.2.2 pl21へのバージョンアップにおいて、以下の項目がサポートされました。

- IP ルートフィルター
IP ルートフィルターについては、最新のコマンドリファレンス (J613-M0522-00 Rev.C) の「IP/ 経路制御フィルター」の節を参照してください。
- VRRP
VRRP については、最新のコマンドリファレンスの「VRRP」の節を参照してください。

4 本バージョンで追加・仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン2.2.2 pl18から2.2.2 pl21へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加、または仕様変更されました。

4.1 ハードウェア IP フィルター EMPORT/EPORT パラメーター指定時の仕様変更

EMPORT/EPORT パラメーターを指定した場合、FDB、L3 テーブルのどちらにも登録されていない MAC アドレス (ブロードキャスト、マルチキャスト、未学習のユニキャスト) 宛てのパケットはフィルタリングの対象にならないよう仕様変更しました。そのため、EMPORT/EPORT パラメーターを使う場合は、以下の点にご注意ください。

- TCPSYN, TCPACK, TCPFIN によるフィルタリングを行う場合は、EMPORT/EPORT を併用しないでください。
- ブロードキャスト、マルチキャストパケットのフィルタリングを行う場合は、EMPORT/EPORT を併用しないでください。

4.2 IGMP スヌーピングの機能拡張

IGMP スヌーピング使用時に、IGMP によるメンバーの登録がない状態で受信したマルチキャストアドレス宛てのパケットをフラディングしないように変更しました。

4.3 DHCP クライアント機能 Client ID の形式設定コマンド追加

複数のインターフェースをDHCPクライアントとして動作させるときに、インターフェースごとに異なる Client ID を使えるようにしました。設定は新規追加された SET DHCP EXTENDID コマンドで行います。詳細は最新のコマンドリファレンスを参照してください。

4.4 DHCP サーバー機能に関する仕様変更

DHCP クライアントによって再送信された DHCP Discover メッセージに対して、DHCP Offer メッセージを送信するように仕様変更しました。

4.5 ファイアウォール(AT-FL-02)セッションテーブル管理内容の変更

PUBLICインターフェース内の通信についてはファイアウォールセッションテーブルでの管理を行わないよう変更しました。

4.6 IGMP(AT-FL-03) Max Response Time の初期値変更

Group-Specific Query メッセージの Max Response Time の初期値を 100 (10 秒) から 10 (1 秒) に変更しました。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl18 から 2.2.2 pl21 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

5.1 DHCP サーバー機能において、任意の VLAN で IP アドレスを取得した端末を別の VLAN に移動すると、該当の端末が IP アドレスを取得できなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。

5.2 DHCP サーバー機能において、任意のポートで静的に IP アドレスが割り当てられた端末を別のポートに移動すると、ARP テーブルの更新が正しく行われなかったために、該当の端末が IP アドレスを取得できなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。

5.3 DNS リレー機能使用時、サーバーの応答パケットの送信元 IP アドレスを、スイッチ自体のアドレスに変換せず、クライアントに送り返すため、一部のクライアントでドメインネームを解決できないことがありましたが、これを修正しました。

5.4 OSPF において、AS 境界ルーター上でインターフェースがダウンしたときに、外部ルート情報が Premature エージング機能によってルータードメインから削除されるように修正しました。

5.5 ソフトウェア IP フィルターにおいて、ADD (SET) IP FILTER コマンドで SIZE パラメーターを指定した場合に、フィルターが正しく動作するよう修正しました。


5.6 ソフトウェア IP フィルターにおいて、ADD (SET) IP FILTER コマンドで設定した内容がただちに動作に反映されない場合がありますでしたが、これを修正しました。


- 5.7 EMPORT/EPORTパラメーターでフィルタリングを行うイーグレス(出力)ポートを指定した場合に、指定のポート以外のポートで、ARPの解決が行われていない通信にフィルターが適用されていましたが、これを修正しました。これにともない、EMPORT/EPORTパラメーター指定時の動作仕様が変更されています。詳細は「4.1 ハードウェアIPフィルター EMPORT/EPORT パラメーター指定時の仕様変更」を参照してください。
- 5.8 ADD(SET) SWITCH L3FILTER MATCHコマンドでTYPE=SNAPを指定し、ADD(SET) SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドのTYPEパラメーターで、間に0(ゼロ)が2つ以上続いて、かつ、連続した0が0以外の数字で挟まれたプロトコル番号(例:AppleTalkのSNAPパケット「080007809B」)を指定した場合、このフィルターが正しく動作するように修正しました。
- 5.9 NVS上にログが保存されるよう修正しました。
- 5.10 SHOW IP INTERFACE コマンドの表示項目 PArp(プロキシ ARPの有効・無効)が、常に「-」で表示されていましたが、これを修正しました。
- 5.11 ADD(SET) IP RIP コマンドのDEMAND=NO(トリガーアップデートの無効)の設定が有効になりませんでした。これを修正しました。
- 5.12 SNMPにおいて、インターフェース拡張グループMIBオブジェクト [ifHCInOctets]などの64bitカウンター(Counter64)が正しく動作しませんでした。これを修正しました。
- 5.13 SNMPにおいて、起動時にリンクトラップが送信されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 5.14 改行コードに「CR+LF」ではなく「LF」だけしかセットしないTelnetクライアントから、本製品に対してログインができるよう修正しました。
- 5.15 特殊なARP requestパケットを受信すると、ARPテーブルが更新されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 5.16 宛先に存在しないホストを指定してPINGコマンドを実行すると、「Request Time out」というメッセージが表示されていましたが、これを「Destination host unreachable」と表示されるよう修正しました。
- 5.17 SHOW INTERFACE COUNTERSコマンドで表示される統計カウンターのうち、VLANインターフェースのifOutOctetsがカウントされていませんでしたが、これを修正しました。
- 5.18 ファイアウォール(AT-FL-02)において、ADD(SET) FIREWALL POLICY LISTコマンドのTYPEパラメーターにMACアドレスを指定した場合、アクセスリストに記載したMACアドレスに対するルールが動作しませんでした。これを修正しました。
- 5.19 ファイアウォール(AT-FL-02)使用時に5%以上の負荷がかかると、送信キューのパケット数が最大(2048)になり、通信が停止する場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 5.20 DVMRP (AT-FL-03) を3台以上の機器で動作させたとき、複数の経路が存在すると経路変更が正しく行われず通信ができなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 5.21 DVMRP (AT-FL-03) とタグVLANを併用した場合、タグ付きポートから送信されるマルチキャストパケットにタグが付与されるよう修正しました。
- 5.22 DVMRPを有効にしたときに送信されるProbeメッセージの1つ目と2つ目のGeneration ID が異なっていたため、これを修正しました。
- 5.23 DVMRP (AT-FL-03) において、すべてのインターフェースで同一のGeneration ID が使用されていましたが、これを修正しました。
- 5.24 DVMRP (AT-FL-03) において、PruneメッセージのPrune有効時間(Prune Lifetime)が終了しても、Pruneメッセージを受信したインターフェースからマルチキャストパケットの転送が再開されませんでしたでしたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

6.1 SNMP MIB オブジェクトについて

 「ユーザーマニュアル」 2-51 ~ 2-52 ページ

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。


- MIB II オブジェクト [ipNetToMediaPhysAddress] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dStpPriority] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dBaseType] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot3StatsFrameTooLongs] が正しくカウントアップされません。

6.2 ソフトウェア IP フィルターについて

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」

ADD (SET) IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

6.3 フォワーディングデータベースについて


 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

- パケットの種類に関係なく、パケットの受信中に本体を起動すると、フォワーディングデータベースに不明な MAC アドレスが登録される場合があります。
- 1回目のエージアウトですべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

6.4 ディレクティブブロードキャストアドレス宛の packets について


異なるネットワークからディレクティブブロードキャスト packets を受信した場合、本製品が返す Reply packets の送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース (packets を実際に送り出すインターフェース) の IP アドレスがセットされます。

6.5 DHCP サーバー機能について

 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」


- クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address (未使用の IP アドレス一覧) に、該当の IP アドレスが重複して表示される場合があります。
- プールされた IP アドレスのうち最初の IP アドレスに限り、本体起動時に使用状況の確認が行われません。

6.6 DHCP リレーエージェント機能について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」


DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値 (最大転送回数) より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

6.7 DHCP クライアント機能について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」


リース延長要求中 (RENEWING 状態のとき) に、DHCP request メッセージがユニキャストでなくブロードキャストで送信されます。

6.8 VRRP について

 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」


- SET VRRP コマンドの PRIORITY パラメーターの設定 (変更) が有効になりません。
- SHOW VRRP コマンドで表示される 「Up Master Trigger」と 「Down Master Trigger」 カウンターの値が、トリガーが起動された回数でなくトリガー番号になっています。

6.9 ファイアウォール (AT-FL-02) のアクセスリストについて

 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」

ファイアウォールルールにアクセスリストを指定した場合、該当のルール以降のルールが無効になります。アクセスリスト以外に複数のルールを併用する場合は、アクセスリストのルール番号に 「299」 (最終番号) を指定してください。

6.10 IGMP(AT-FL-03)について

 「コマンドリファレンス」/「IPマルチキャスト」/「IGMP」

- IGMP タイマーの Other Querier Present Interval の値を変更することができません。
- IGMPを有効(ENABLE IP IGMP)から無効(DISABLE IP IGMP)に設定しても、Reportメッセージがフラッディングされません。設定を保存すると正常にフラッディングされます。


6.11 DVMRP(AT-FL-03)について

 「コマンドリファレンス」/「IPマルチキャスト」/「DVMRP」

- Graft/Prune メッセージを受信すると、受信ポートの所属 VLAN 内すべてのポートに Graft/Prune メッセージがフラッディングされます。
- Graft/Prune メッセージの Source Address フィールドにホストのアドレスではなく、ネットワークアドレスが設定されます。
- 送信ホストと異なるVLANにグループメンバーが存在している構成において、そのVLANに所属する下流側ルーターからGraftメッセージを受信しても、マルチキャストパケットの転送が行われません。


7 ユーザーマニュアルの補足事項

7.1 VLAN への IP アドレス設定数について

 「ユーザーマニュアル」 3-45 ページ


本製品の VLAN 設定数は最大 62 個 (default VLAN を除く) ですが、VLAN への IP アドレス設定数は最大 32 個となります。

7.2 スパニングツリードメイン設定数について

 「ユーザーマニュアル」 3-29 ~ 3-36 ページ

スパニングツリードメインの設定数は、最大 16 個となります。

7.3 QoS について

 「ユーザーマニュアル」 3-27 ~ 3-28 ページ

- 本製品は、ユーザープライオリティを 0~3 の 4 レベルのキューに割り当てることができます。

「ユーザーマニュアル」 3-27 ページに「システムは、優先度の高いキュー 3 から順に、すべてのパケットを転送した後、次のレベルのキューの転送を行います。」とありますが、正しくは以下のとおりとなっていますので、訂正してお詫びいたします。

各レベルのキューに割り当てられる帯域は、相対的に最も優先度の低いキューが 0% で、残りのキューが 100% を均等に共有するという割合になっています。割り当てられる帯域は、パケットが同時にキューイングされているキューの数により次のように異なります (数値は一番左が相対的に最もレベルの低いキュー、一番右が相対的に最もレベルの高いキューに割り当てられる帯域を示しています)。


同時に 2 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 100 (%)

同時に 3 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 50 : 50 (%)

同時に 4 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 33 : 33 : 33 (%)

- タグ無しパケットは、ユーザープライオリティ「0」で処理されます。

7.4 ポートランキングについて


 「ユーザーマニュアル」 3-6 ~ 3-8 ページ

- バージョン 2.2.2 pl11 で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex 固定から SPEED パラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン 2.2.2 pl11 以降を搭載した機器とバージョン 2.2.2 pl04 以前を搭載した機器間ではポートランキングの接続はできませんのでご注意ください。
- バージョン 2.2.2 pl18 で、ポートランキングと VLAN 間ルーティングを併用した場合に、ルーティングされたパケットに対して負荷分散が行われるようになりました。ただし、送信ポート決定の基準になるのは「IPDEST (終点 IP アドレス)」のみで、その他のパラメーターを指定した場合も、IPDEST を指定したときと同じ動作になります。

- フラッディングされたパケットの送信ポートには、トランクグループ内でリンクが一番最初に確立したポートが使用されます。
- ポートランキングとスパンニングツリーを同一ポートに設定することはできません。

7.5 リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」について

- バージョン 2.2.2 pl04 で、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」がサポートされたことにより、ステータス LED の表示内容が以下のようになります。

 「ユーザーマニュアル」 1-8, 4-5 ページ

LED	色	状態	表示内容	
FAULT	赤	点灯	本体、またはソフトウェアが故障しています。	
		点滅	1回点滅：	ファンに障害があります。
			3回点滅：	リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。
			4回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。
			5回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。
消灯	システムに異常はありません。			
RPS	緑	点灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、かつ、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されています。	
		消灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでOFFが指定されているか、ONが指定されている場合はリダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。	
PWR	緑	点灯	本体に電源が供給されています。	
		消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。	


- CentreCOM RPS8000 の状態表示には、LED の表示と CLI での表示があります。どちらも、SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドによるモニターの有効化が必要です。
- SET SYSTEM RPSMONITOR={ON|OFF}**

ON(有効)/OFF(無効)で指定します。デフォルトはOFFです。OFFの場合、LEDやCLIでCentreCOM RPS8000 の状態を表示することはできません。

SHOW SYSTEM コマンドで表示される以下の項目で、本体とCentreCOM RPS8000 の電源状態を表示します。

Main PSU	本体の電源状態です。On(電源オン)/Off(電源オフ)で表示します。
RPS Monitor	CentreCOM RPS8000 のモニターのステータスです。On(有効)/Off(無効)で表示します。
RPS Connected	本製品とCentreCOM RPS8000 のDC電源ケーブルによる接続状態です。YES(接続)/NO(未接続)で表示します。
RPS PSU	CentreCOM RPS8000 の電源状態です。On(電源オン)/Off(電源オフ)で表示します。

7.6 ADD(SET) USER コマンドについて

 「ユーザーマニュアル」 2-28 ページ

バージョン 2.2.2 pl04 で、ADD(SET) USER コマンドに LOGIN パラメーターが追加されました。


ADD USER=login-name PASSWORD=password LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}
[other-options...]

SET USER=login-name [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]

SET USER [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]

LOGIN パラメーターは、USER レベルのアカウント (PRIVILEGE=USER) を作成する場合に必須となります。TRUE (ON/YES) を指定した場合は、ユーザーにコマンドラインインターフェース (CLI) へのログインを許可します。FALSE (OFF/NO) を指定した場合は、ユーザーに CLI へのログインを許可しません。RS-232 経由、および Telnet 経由のログイン行為に対して有効です。


7.7 ポートセキュリティのスタティックエントリ (learn) について

 「ユーザーマニュアル」 3-12 ~ 3-15 ページ

SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合のスタティックエントリ (learn) の扱いが、バージョン 2.2.2 pl04 で一部変更になりました。

- **2.1.5 pl02 以前**
 スタティックエントリ (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、FDB から消去されます。
- **2.2.2 pl04 以降**
 スタティックエントリ (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、(設定内容を保存しても) 本体の再起動によって FDB から消去されます。

7.8 RIPバージョン2について

 「ユーザーマニュアル」 3-46 ページ

RIPバージョン2の可変長サブネット環境において、ADD (SET) IP RIP INTERFACE コマンドで、RECEIVE パラメーターに BOTH を指定した場合、経路情報を受信することができません。RECEIVE パラメーターには RIP2 を指定するようにしてください。

8 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2 (J613-M0522-00 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、付属のユーザーマニュアルと上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、ホームページで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「J613-M0522-00 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

コマンドリファレンス 2.2 (J613-M0522-00 Rev.C)へのリンクはこちら：
<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/8624xl/manual.html>

